ひろしまWENET

広島市女性団体連絡会議　広報紙　第43号　2017年3月

目次

● DV防止セミナー（報告）……1
● 2017国際女性デーひろしま（報告）……3
● 活動報告（広島市議会の傍聴）……4
● 広島市女性団体連絡会議（ひろしまWENET）からのお知らせ……4

DV防止セミナー（報告）

2月5日に広島市男女共同参画推進センター（ゆいぽーと）で「当事者男性が語るDVの本質～よりよい関係をつくるために～」をテーマにDV防止セミナーを開催し、約100人の参加がありました。

昨年に引き続き、DV加害者の更生プログラムに取り組んでおられる団体である、クロッケ代表の黒瀬茂子さんにコーディネーターをお願いし、クロッケのDV加害者プログラムを受講中の当事者男性に語っていただくことをメインにしたセミナーとしました。

ひろしまWENETでは、夫婦の役割分担という背景の中で、妻が低く見られている状況を変えられるよう、男女平等の課題について取り組みたいと考えております。そこで、今回のセミナーは、DV加害者の現実を知ってもらい、DV加害者であることに少しでも早く気づいてもらいたいと当事者男性に勇気を出してお話しいただくことで、皆さんにDV防止について考えてもらいたいと企画したものです。

はじめに、黒瀬さんから、「加害者自身が自分の行為について話ができるのは、客観視できたからであり、養育費などの負担をしながら、別居、離婚しているパートナーとの関係改善を目標にプログラムを受けている」と解説がありました。続いて3人の当事者男性からお話を伺い、会場からの質問にもお答えいただきました。ご本人にとっても辛い自らの経験を語られるので、匿名で顔が分からないようにカーテンで仕切ってお話しいただきました。

DV当事者男性の経験談

黒瀬茂子さん

Aさん（40代、娘1人、離婚）：妻に対してモラルハラスメントをしていました。経済的な問題等でアドバイスのつもりが自分の考えを押し付け、口調もきつくなり、妻の自主的な考えを奪い、理詰めで妻を追い込んでいました。自分の出張中、突然「出て行く」というメールが妻から届き、妻が実家に帰ってからDVと気づきました。子どもにも迷惑をかけたくありません。元妻や子どもとより良い関係を築きたいと思っています。

Bさん（50代、娘2人、別居を経て離婚）：妻を結婚当初からたたいたり、髪を引っ張ったり、けったりしていましたが、途中でいけないことだと気づいたので止めました。しかし、今度は大声を出したり、ドアをバタンと閉めたりしていた結果、妻はうつ状態になりました。ある時、ささいなことで腹を立て、言ってはいけないと分かってはいましたが、妻に「出ていけ」と言ってしまいました。妻から別居したいと言われ、娘からもDVだと言われ、ショックだったです。ネットでDVを調べ、自分に当てはまることが信じられず、耐えられなくなり自分から家を出ました。娘と良い関係を築くことを目的にクロッケへ通っています。

Cさん（40代、娘1人、別居中）：妻を一度だけけったことがありますが、物を投げ付けたのが一番のきっかけでした。妻を精神的に追い詰めてしまい、妻は警察にも相談していたそうです。

メールでのけんかが絶えず続き、自分も家に帰りづらくなっていました。妻からは「実家に帰る」と予告されていました。別居してから自分が発達障害であるということが分かり、今、臨床心理士を交えながら、将来、家族と一緒に暮らすことを目標に、夫婦で手引書を作っているところです。

参加者との質疑応答

●DV加害者の男性が高圧的で感情的になっている時、妻はどのように話し合えば良いですか?

Aさん：二人だけではうまくいかないでしょう。第三者が入って双方の話を聞く場が必要です。
Bさん：落ち着いてからゆっくり話した方が、効果があると思います。
Cさん：お二人の意見と同じです。

●暴力を振るったり、暴言を吐いたりした後、どう思っていましたか?

Aさん：気持ちが良かったことはありません。
言わせる妻が悪いと思いました。
Bさん：一度も気持ちがスッキリしたことはありません。
「やってしまった」と思いましたが、謝れませんでした。
Cさん：後悔しました。

質問する参加者

●DV加害者はどうすれば早く気づいたと思いますか?

Aさん：自分が気づかないから言ってしまうので、母や妹など周りからでも言ってほしかったです。
Bさん：加害者プログラムを受講して自分を見つめ直すことができ、自分の性格がよく分かりました。
自分が思春期の中・高校生のころにきちんと学んでいたら、違っていたと思います。
Cさん：客観的に自分の性格、状態を見つめ直す機会があれば良かったです。子どものころに発達障害があるということに気づき、自分の特性を理解すれば、人生を切り開きやすいと思います。

黒瀬さんの解説とアドバイス

DV加害者の男性は、両親がモデルケースになっており、気づいたら父親と同じようになってしまっています。DVは社会的問題です。面前DVが繰り広げられ、子どもたちがDVを学んでしまいます。子どもの貧困の問題もあります。

モラハラDVからエスカレートする場合が多いです。DV加害者も感情を持った人間ですが、喜怒哀楽の中で、注意を払わずに怒りを出してしまったことが問題です。毎日の生活で肯定語を使い、否定語

会場の模様

をなくすことが大事で、「ありがとう」「うれしいよ」など優しい言葉を言いながら、お互いにすり合わせていきましょう。頭が柔らかい新婚の段階で、話し合いが行われ軌道修正できれば良いと思います。

加害者男性は、子どもからDVを指摘されるのが一番こたえます。次は親兄弟です。妻から指摘しても、軽く見られているから効きません。別居する、離婚することになって、初めてDVだと分かります。別居は疑似離婚で、お互いが見つめ直す時です。お互いが家庭っていいなと考えた時、どう修正するのかを二人で冷静に考える、その段階を経ないと完全に壊れてからでは再生はできません。

結婚前、結婚直後のご夫婦にこの話を伝えられたらと願っています。何年後かにDVが少なくなったねという社会を目指し、彼らがここに出てきて話したことを貴重なものとして、ぜひ伝えてください。

セミナー終了後の参加者アンケートでは、当事者男性の皆さんから貴重なお話を聞けたことに感謝の言葉がたくさん書かれていました。また、子どものころや結婚前に教育がなされることが大事だというご意見もいただきました。

（啓発部会　中嶋典子）

2017国際女性デーひろしま（報告）

蔵本順子さん

1910年、世界の女性の統一行動日として創立されたのが「国際女性デー」です。3月5日に広島平和記念資料館東館のメモリアルホールで「2017国際女性デーひろしま」が「広島のある 日本のある この世界で私は生きる」をテーマに開催され、約260人の参加がありました。

14回目になる今年は趣を変え、今、大ヒット中の映画「この世界の片隅に」の原作者として注目が集まっている、こうの史代さん原作の実写版「夕凪の街　桜の国」を上映し、トークとして八丁座・サロンシネマ館主の蔵本順子さんにお話しいただきました。

蔵本さんは、「夕凪の街　桜の国」の見どころ、この映画の広島市内での撮影時の裏話、「この世界の片隅に」にまつわるエピソード、映画業界のお話などを関係者の立場から楽しくお話ししてくださいました。普段なかなか縁のない世界ですので、びっくりする内容もあり、大変新鮮な気持ちで聞くことができました。「夕凪の街　桜の国」は原爆で被爆した女性と現代に生きる女性、二人の女性を通して、原爆の悲劇や生きる喜びなどを描いている作品ですが、蔵本さんのお話を聞いたうえで鑑賞すると、それぞれの場面の理解が一層深まりました。

会場の模様

わたしたちの時代は、戦争体験者から直接話を聞ける最後の世代です。こうの史代さん原作の映画は戦争体験継承の意図が込められた作品です。まさに今年のテーマそのものでした。

広島市男女共同参画推進センター（ゆいぽーと）での展示の模様

また、今年も世界41の国と地域から122通の連帯メッセージが届き、広島市男女共同参画推進センター（ゆいぽーと）で展示を行いました。一つ紹介します。「平和のためには、核兵器を禁止する国際的な決議が必要です。そして女性の声に注意深く耳を傾けるべきです。ヒロシマの女性たちの平和のための活動は素晴らしいと思います。（スウェーデン・女性・元経済学者）」

（報告：松村愛子）

活動報告

広島市議会の傍聴

予算特別委員会(厚生関係)の模様
写真提供:広島市議会

3月1日、広島市議会の予算特別委員会(厚生関係)を傍聴し、山路英男氏(自民党)、平木典道氏(公明党)、馬庭恭子氏(市政改革ネットワーク)の発言を聞きました。

発言要旨は、家庭・地域社会においての子育て環境づくり、高齢者公共交通機関利用助成の見直しについて、子どもの貧困・学習支援について、アルコール依存症等対策についてなどでした。

わたしたち庶民の生活に密接なことばかりで、興味深く聞きました。特に、全国的にも大きな社会問題となっている、子育て(貧困対策、保育園への入園待機児童の件)については、他の政令指定都市の対応について紹介があり、理解が深まるとともに、対応の難しさや重要性を認識しました。また、高齢者の公共交通機関利用助成は新しい制度としてポイント事業が検討されていることを知りましたが、社会参加や健康促進の意味からも問題は複雑で検討課題があるように思えました。

この度傍聴したことで、わたしたちは日ごろから市議会への関心を持ちつつ、市民全体の平和な生活が維持できるよう見守り、知恵を出し、研究していくことが求められるのだと感じました。

(報告:啓発部会　宮田保江)

広島市女性団体連絡会議(ひろしまWENET)からのお知らせ

男女共同参画社会の実現に向けて、わたしたちと一緒に活動してみませんか
団体会員・個人会員を随時募集しています

新会員の紹介

Human&Network 宙(そら)　　代表　中嶋 典子

今年度から加入しました。ひろしまWENETでは、啓発部会でDV防止セミナーの開催などを担当しています。どうぞよろしくお願いいたします。

ひろしまWENET　2017年度総会

日　時:6月10日(土)10:00～12:00
場　所:広島市男女共同参画推進センター(ゆいぽーと)5階第2研修室

ヒロシマ平和の灯のつどい

例年のつどいに先立ち、原爆被爆者からの講話を聞く会を開催する予定です。たくさんの方々のご参加をお待ちしております。

日　時:7月31日(月)17:30～
場　所:平和記念公園等

2016年の「ヒロシマ平和の灯のつどい」の模様

ピンクリボン de カープ

ピンクリボンdeカープの開催日が決定しました。2017年度のみ特別に最終戦である読売ジャイアンツ(巨人)戦での開催となります。カープの応援とともにピンクリボン活動に参加しましょう。

日　時:9月23日(土)午後(開始時刻は未定です。)
会　場:マツダスタジアム

マツダスタジアム

WENETニュース第43号　2017年3月
発行者　広島市女性団体連絡会議
(広島市市民局人権啓発部男女共同参画課気付)
責任者　貴田　月美